

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：32631

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K01801

研究課題名（和文）通信制高等学校生徒のQOL向上のための総合的支援に向けた調査研究

研究課題名（英文）Research for Comprehensive Support to Improve the Quality of Life of Correspondence High School Students

研究代表者

平部 正樹（Hirabe, Masaki）

聖心女子大学・現代教養学部・准教授

研究者番号：20366496

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、通信制高校生徒のQOL向上のための総合的支援につながる知見を得ることを目的として実施した。全国にキャンパスを持つ私立広域制通信制高校の全生徒を対象としたメンタルヘルスや学習についての質問紙調査、ならびに、同校の卒業生を対象とした在校中ならびに卒業後の適応にかかわる要因についてのインタビュー調査を実施した。前者については、通信制高校生徒のメンタルヘルスや学習の特徴、ならびに、その変化を明らかにできた。また、後者では、在校中または卒業後の進路での適応の要因やそのための支援を明らかにすることができた。また、これらの知見を同校にリーフレットによってフィードバックした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在日本では少子化が進んでいるが、通信制高校の学校数や生徒数はますます増加の傾向にある。学びの多様化や、学校の福祉的な役割という観点からも、日本の社会での通信制高校の位置づけは、今後より重要になる。さまざまなニーズを持って通信制高校に入学してくる生徒の実態を把握し、支援方法を検討することが必要であるが、実証的な研究はこれまで少なく、本研究の学術的な意義は大きいと思われる。通信制高校での生活をどのように送るか、それをベースに卒業後の次の進路でどのように適応していくか、これらがうまく進むための支援についての知見を示せたことが本研究の社会的意義である。

研究成果の概要（英文）：This study was conducted to gain knowledge that could lead to comprehensive support for improving the quality of life of correspondence high school students. A questionnaire survey on mental health and learning was conducted among all students at a private, wide-area correspondence high school, and an interview survey was conducted among the school's graduates on factors related to adjustment during school and after graduation. The questionnaire survey clarified the characteristics of the mental health and learning of correspondence high school students, as well as their changes. The interview survey identified the factors of their adjustment during school and after graduation, as well as the support. We fed back these findings to the school by means of a leaflet.

研究分野：臨床心理学

キーワード：信制高等学校 メンタルヘルス 学習 ストレス 学習目標 学習方略 満足度 QOL

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 児童生徒の精神健康の維持・増進は、学校における重要課題である。学校生活を健康的に送るだけでなく、将来的な自立を見据えた支援が必要となる。通信制高校は、1961年の学校教育法の一部改正により、全日制、定時制に次ぐ第三の課程として成立した。当初、日本は高度経済成長期にあり、通信制高校は勤労青年の学校としての役割が大きかった。しかし、高校進学率が高まり、そのような生徒が減少する一方で、多様なニーズを持つ生徒が入学するようになってきた。近年は、少子化で高校数や生徒数が低下する一方で、通信制高校数や生徒数が増加の一途をたどっており、日本社会における通信制高校の役割は重要なものとなっている。

(2) 通信制高校への多様なニーズのうち、大きな課題となっているのがメンタルヘルスである。不登校経験を持つ生徒や、こころの問題を抱えた生徒が通信制高校を選択するようになってきたとされている。また、学習上の問題を抱えた生徒も多いと言われている。このように、現在の通信制高校は、メンタルヘルスの問題を抱えた生徒達を次のライフステージへと繋ぐ重要な役割がある。そのために、各通信制高校では多様な方法で、生徒が学校生活を送るための支援をしている。しかしながら、通信制高校自体に適応することが難しい人、卒業後進学も就職もしない人が全日制・定時制高校よりも依然多いこと、卒業後の進路で適応することが難しい人が多いなど、今後取り組まなくてはならない課題も多い。

(3) 長期的な視点を持ちつつ、生徒達の在学中・卒業後の生活の質 (Quality of Life; QOL) を高める支援をすることが重要である。そのためにも、通信制高校生徒のメンタルヘルスや学習に関する調査が必要であるが、現在のところそのようなデータは少ない。学習機会の多様性、学校の福祉的役割といった今日的課題について考えるためにも、通信制高校についての知見を蓄積していくことが必要である。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究は、全国に11のキャンパスを持つ私立広域通信制高校を主なフィールドとし、通信制高校生徒のQOL向上のための総合的支援につながる知見を得ることを目的として実施した。

(2) 通信制高校の現役の生徒を対象としたメンタルヘルスと学習についての質問紙調査は、現その実態と関連要因を検討することを目的とした。

(3) 通信制高校卒業生を対象としたインタビュー調査では、卒業後の適応にかかわる要因と支援について検討することを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 質問紙調査は、2015年度から2018年度まで実施した。本研究では、2017年度と2018年度の調査実施、2015年度から2018年度までのデータ分析を実施した。調査時期は各年度の10月から12月まで、もしくは1月までであった。対象は、調査実施時に在籍した全生徒であった。

調査票はすべての年度で、一部の微修正を除いて、ほぼ同じであった。基本項目、精神健康関連項目、ライフスキル項目、学習関連項目から構成されていた。精神健康関連項目については、ストレス、精神健康度について尋ねるものであった。ストレスは、通信制高校入学前のストレス、通信制高校入学に関わるストレス、通信制高校入学後のストレスについて、「学業」、「友人関係」、「教師との関係」、「部活動」、「学校行事」、「家庭環境」、「健康状態」、「バイト・仕事」各8領域について質問する項目であった。精神健康度については、Kessler6 (以下、K6) を用いた<sup>1,2)</sup>。ライフスキルは、WHO (1994) に準じて、『意志決定スキル』である「意志決定」「問題解決」の2項目、『目標設定スキル』である「創造的思考」「批判的思考」の2項目、『コミュニケーションスキル』である「効果的コミュニケーション」「対人関係」の2項目、『自己認識スキル』である「自己意識」「共感性」の2項目、『ストレスマネジメントスキル』である「情動への対処」「ストレスへの対処」の2項目、合計10項目について質問した<sup>3)</sup>。

(2) インタビュー調査は、2018年11月から2022年1月に実施した。対象は、質問紙調査を実施した私立広域通信制高校を卒業後、通学制の大学に進学し3年生まで進級した計12人を目的志向的に抽出し、半構造化面接調査でのインタビューを実施した。インタビューは、対面もしくはオンラインで実施した。インタビューガイドは、卒業後の適応に関わる要因やそのための支援について把握するための6つの質問から成っていた。得られた結果は McCracken の Long Interview 法<sup>4)</sup>を参考にして、複数の研究者で質的に分析した。

### 4. 研究成果

(1) 質問紙調査

各年度、11 キャンパスの全生徒を対象とした調査を実施した。2015 年度は、3888 人を対象とし、2423 人からの回答を得た（回収率 62.3%）。2016 年度は 4618 人を対象とし、2899 人からの回答を得た（回収率 62.8%）。2017 年度は、4867 人を対象とし、2972 人からの回答を得た（回収率 61.1%）。2018 年度は、4950 人を対象とし、2908 人からの回答を得た（回収率 58.7%）。ここでは、平部(2021)を再掲し、2015 年度のデータについて報告する。

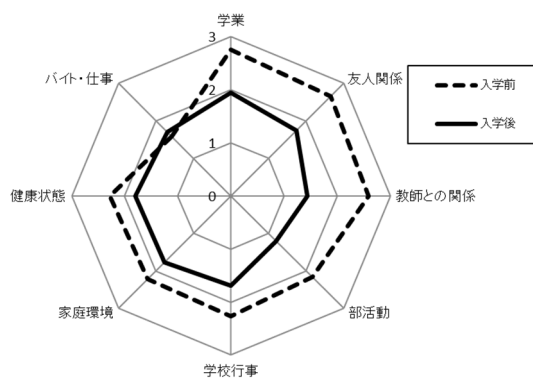


図1 入学前および入学後のストレス

性別は、男性 37.3%、女性 62.7%であった。平均年齢±SD は、17.0±1.4 歳であった。入学形態では、新入学が 38.7%、転入学で 48.7%、編入学は 12.7%であった。

回答者のストレスの状況を図 1 に示した。入学前のストレスは調査時の想起により回答を求めた。入学前後のストレスの変化については、総じて入学前よりも入学後でストレスが低下していることが明らかとなった。精神健康度については、平均±SD は 7.3±6.4 点で、カットオフポイントである 5 点以上の者が 6 割近くであった。

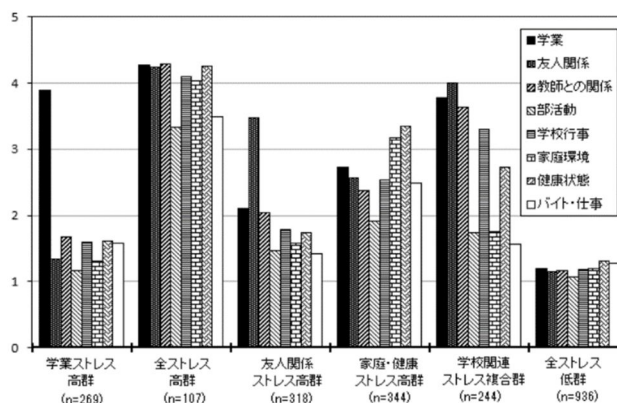


図2 通信制高校選択に関わるストレス8得点における非階層クラスタ分析

通信制高校選択に関わるストレス 8 領域の得点で K-means 法による非階層的クラスタ分析を行ったところ、「学業ストレス高群」「全ストレス高群」「友人関係ストレス高群」「家庭・健康ストレス高群」「学校関連ストレス複合群」「全ストレス低群」の 6 つの群が抽出された。これらは、通信制高校へのニーズを示していると考えられた。群毎に精神健康度に関わるストレスやライフスキルを抽出することで、生徒のニーズごとに、異なった支援のアプローチが必要であることも示された。

## (2) インタビュー調査

調査参加者は計 12 人(男性 2 人、女性 10 人)、平均年齢±SD は 21.2+0.6 歳であった。

適応に寄与した要因について、研究グループでディスカッションをしながらテーマを抽出して分類した。大分類として「通信制高校での学校生活への再適応」「新たな場へのチャレンジ」「大学という新たな場への適応:初期段階」「大学という新たな場への適応:適応の定着」「卒業後の適応につながる成長」の 5 段階のプロセスが抽出された。

通信制高校では、多様なニーズを持った生徒が、比較的緩やかな枠組みの中で自己を立て直しをできていた。その上で、卒業後の生活のイメージを具体的に掴んで心構えをし、生活を組み立てていくことも重要な要素であった。次の進路では、生活の変化をうまく乗り切ること、それを継続することが適応に結びついていた。自己を立て直した後に新たなチャレンジの意欲を涵養する準備教育、進路決定後には、進学先との連携による入学前教育についての検討が、今後の課題であると考えられた。

1) Kessler RC, Andrews G, Colpe LJ, et al. A Short screening scales to monitor population prevalences and trends in nonspecific psychological distress. Psychol Med 2002; 32: 959-976.

2) Furukawa TA, Kawakami N, Saitoh M, et al. The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. Int J Methods Psychiatr Res 2008; 17:152-158.

3) 川畑徹朗, 西岡伸紀, 高石昌弘, 他監訳. WHO ライフスキル教育プログラム. 東京: 大修館書店, 1997;17-23.

4) Mccracken G. The Long Interview. SAGE Publications, CA: 1988.

5) 平部正樹, 藤後悦子, 藤城有美子, 他. 私立広域通信制高校生徒の通信制高校選択に関わるストレス別に見た精神健康の関連要因. 日本公衆衛生雑誌 2021; 68: 413-424.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 平部 正樹, 藤後 悦子, 藤城 有美子, 北島 正人, 藤本 昌樹, 竹橋 洋毅	4. 巻 6
2. 論文標題 私立広域通信制高校生徒の通信制高校選択に関わるストレス別に見た精神健康の関連要因	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本公衆衛生雑誌	6. 最初と最後の頁 414 - 424
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11236/jph.20-078	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤後悦子・小林寛子・竹橋洋毅・藤本昌樹・平部正樹	4. 巻 7
2. 論文標題 通信制高校生の過去および現在の学校関連ストレスが幸福感に与える影響 - いじめ被害経験の有無に焦点を当てて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 未来と保育	6. 最初と最後の頁 33-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤後悦子、竹橋弘毅、小林寛子、平部正樹、藤本昌樹	4. 巻 7
2. 論文標題 通信制高等学校生徒の中学時代に打ち込んだ経験が中学校生活の満足度に与える影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 モチベーション研究	6. 最初と最後の頁 17-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹橋弘毅、小林寛子、平部正樹、藤後悦子、藤本昌樹	4. 巻 7
2. 論文標題 暗黙の知能観が通信制高等学校の生徒の幸福感に及ぼす影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 モチベーション研究	6. 最初と最後の頁 28-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小林寛子・竹橋洋毅・平部正樹・藤後悦子・藤本昌樹
2. 発表標題 通信制高等学校生徒の学業ストレスと目標志向性が学習方略使用に及ぼす影響
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤後悦子、平部正樹、小林寛子、竹橋洋毅、藤本昌樹、藤城有美子、北島正人
2. 発表標題 入学前後のストレスが通信制高校生徒の幸福感に与える影響：不登校経験の有無という観点から
3. 学会等名 日本教育心理学会第61回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林寛子、竹橋弘毅、平部正樹、藤後悦子、藤本昌樹
2. 発表標題 達成目標、学習行動、学習成績の関連 - 通信制高等学校生徒を対象とした調査 -
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤後悦子、平部正樹、小林寛子、藤本昌樹、竹橋洋毅
2. 発表標題 通信制高校生の入学前の学校生活の実態
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 竹橋洋毅、小林寛子、平部正樹、藤後悦子、藤本昌樹
2. 発表標題 増大的知能観によるストレスの悪影響の緩和効果
3. 学会等名 日本社会心理学会第58回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤後 悦子 (Togo Etsuko)  (40460307)	東京未来大学・こども心理学部・教授  (32816)	
研究分担者	藤城 有美子 (Fujishiro Yumiko)  (40318283)	駒沢女子大学・人文学部・教授  (32696)	
研究分担者	北島 正人 (Kitajima Masato)  (30407910)	秋田大学・教育文化学部・教授  (11401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------